

映画史上に輝く  
幻の名作、  
いま甦る

中川信夫監督作品  
原作●鶴屋南北

天鶴茂  
江見俊太郎  
中村竜三郎  
若杉嘉津子  
北沢典子  
池内淳子

# 談怪谷四道東

ニールプリント完全版(カラー)  
一九五九年 新東宝製作  
日本アートシスター・ギルド配給





●かいせつ●

わが国映画界の最長老・中川信夫監督が一九五九年に発表した鶴屋南北の代表作の映画化。「世界奇映画ベスト10」第一位にランクされた内外怪奇映画の最高傑作である。(新東宝スコープ・フジカラー/上映時間1時間16分)

●あらずじ●

備前岡山の屋敷町で浪人民谷伊右衛門は、お岩との仲をひきさかれたのを恨みに思い、その父四谷左門と、彼の友人佐藤彦兵衛を手にかけた。これを目撃した仲間直助は、弱味につけてこんで伊右衛門を脅迫するようになった。伊右衛門と直助は左門・彦兵衛殺しを他人の仕事とみせかけ、お岩と妹のお袖、お袖の許婚者で彦兵衛の息子与茂七の三人をつれて仇討と称し、江戸に向けて発った。道すがら、お袖に想いをよせる直助は、伊右衛門をそそのかして与茂七を白糸の滝につき落させた。江戸に出た伊右衛門は、ある日無頼の徒から伊藤喜兵衛親娘を救った。喜兵衛の娘お梅は、それが縁で伊右衛門に心をよせるようになった。その誘惑と、喜兵衛の家に入りこめるといふ金と立身出世への夢が、伊右衛門を動かした。直助にそそのかされて、彼はお岩殺害を決意した。あんな宅悦を使ってお岩にいいよらせ、不義の現場で斬りすてようという寸法である。だが、伊右衛門の決意をうたがった直助は、伊右衛門を通じて毒薬をお岩にのませるよう計った。無残に顔の腫れあがったお岩は、驚く宅悦の口から事の真相を聞くと、自殺した。宅悦を斬った伊右衛門は、その屍体とお岩の屍体を戸板に釘づけにし、隠し堀に投げ入れた。伊右衛門はお梅と祝言をあげた。だがお岩の亡霊にとりつかれた彼の目には、お梅やその一族がお岩や宅悦の顔に見えた。彼は一家の者を次々と斬殺した。一方、直助はお袖を女房にしたものの、その顔がお岩にみえて近づけなかった。直助が隠し堀からひろってきた柳と着物がお岩の亡霊が現れ、彼女を生きていた与茂七に引きあわせた。その時財布分配の争いから、伊右衛門は直助を殺した。一切を知ったお袖は、与茂七とともに伊右衛門を討ち、姉の恨みをはらした。

●ニュープリント・完全版  
カラー●1959年新東宝製作

東海道四谷怪談

●中川信夫監督作品  
●原作＝鶴屋南北



●再評価されるべき「東海道四谷怪談」●滝沢一

73年10月号の「映画評論」誌が「怪奇映画ベスト10」を選出したことがある。そのとき中川信夫の「東海道四谷怪談」は、内外の作品に伍して、堂々と第一位に選ばれている。この風変わりなベスト10は、読物としてもなかなかおもしろく、ついでに二位以下の作品も参考のために書いておく。①「血とバラ」(ロジエ・パデム)②「吸血鬼ドラキュラ」(テレンス・フイツァー)③「地獄」(中川信夫)④「吸血鬼」(ロマン・ポランスキー)⑤「反撥」(同上)⑥「悪魔の首飾り」(「世にも怪奇な物語」の一篇、フェデリコ・フェリーニ)⑦「白い肌」(狂う鞭)⑧「悪魔の首飾り」⑨「顔のない眼」⑩「ジョルジュ・フランジュ」このベスト10の選考のなかで、佐藤重臣は「怪奇映画」というのは、デレタットの極致であり、それ故に誰も知らない映画をひとり悦に入っていると書いて、本来の意味からいえばおもしろいところなのだ」と書いている。一言である。確かに非現実的な悪魔や吸血鬼や幽霊の存在を信じ、それらと恐怖や愉悅を共有することも、デレタットの境地であり、極致であるかもしれない。しかし、「東海道四谷怪談」は、西欧的な怪奇とは趣きを異にする。幽霊や一種の神経的な霊現象として見、そこに人間の呪いや、虐げられた者の怨みを綿々とする、どろどろとした怨念の世界は、日本の怪奇映画に独得なものである。「東海道四谷怪談」にしても、怪奇映画というよりは、「人間修羅の深淵をのぞくところ」に、コワさがあり、戦慄がある。

この映画の伊右衛門など、決して根っからの悪党ではないが、お岩を殺す誘惑に勝てない。江戸の裏長屋で、職のない浪人夫婦が毎日味気なく心細く過ごすその暗たんたる日常のふん困気がきめ細かく描かれていることによって、彼の悪の企みも納得される。べらべらと早口で伊右衛門をそそのかす直助権兵衛にしても、人間の軽薄さがまるごと出ているし、按摩の宅悦が色と慾にからんでお岩にひどく描写にもグロテスクな写実性がある。こうしてお岩が、幽霊ながらも魂の世に止まらざるを得ない道行をたどり出でてゆくのだが、それが一見現代と隔絶した世界の出来事のように見えて、かえってそこに伊右衛門や、直助や宅悦らの現代にも通じる人間のホンネの部分や、引き出される。時代劇の怪談もののパターンを踏襲しながら人間のもろもろの悪のタイプがしっかりとおさえられているからである。

伊右衛門が新しい妻のお梅との祝言の夜に、早くもお岩の亡霊が現われて、伊右衛門がたちまち動揺し、狂気するところにも、悪に敵しきれない人間の弱さが、事の成りゆき上のごく自然な心理現象として扱われている点など、よくぞある。それでいて、中川演出は部分的には思いきって様式化された手法をまじえて、デフォルメ効果に成功している。一枚の戸板の両面に不義者として釘づけされたお岩と宅悦の亡霊が天から舞い降りてくるようにして現われる。それはまるで神の審判の下るかのごとく、伊右衛門を断罪するものである。赤いカヤが天から降り、宙に舞って、伊右衛門の錯乱をイメージ化するあたりも、中川のすぐれた演出感覚をうかがわせる。ワイドカラーのスクリーンに現われるお岩さまなど、もはや完全にアナクロニズムであらう。23年前の封当時は、お岩の悪いヤングたちは、お岩のお化けが出てくると、クスクスと笑い出したのである。だが今や、「東海道四谷怪談」は、怪奇映画ベスト10の第一位にもランクされ、この種映画の古典になって、かえって作品そのものがアブストラクトな変容をうけて、新たに評価される時機にきているのではないかとおもう。

製作	大蔵 貢	■キャスト	民谷伊右衛門	天知 茂
企画	小野沢 寛	お岩	若杉嘉津子	
原作	鶴屋 南北	直助	江見俊太郎	
脚色	大貫 正義	佐藤与茂七	中村典二郎	
監督	石川 義典	お袖	北沢 典子	
撮影	中川 信夫	お梅	池内 淳子	
音楽	西本 正	伊藤喜兵衛	花岡 菊子	
美術	渡辺 宙明	宅悦	林 寛	
照明	黒沢 治安	四谷左門	大友 純	
録音	折茂 重男	佐藤彦兵衛	浅野進治郎	
	道源 勇二		芝田 新	

ATG創立20周年記念2本立特別上映  
同時上映:中川信夫監督作品「怪異談・生きてゐる小平次」  
特別ご鑑賞券¥1,200好評発売中  
(当日一般¥1500・学生¥1300)

8月下旬ロードショー!

アート・シアター  
有楽シネマ (201) 3066

歌舞伎町劇場前  
新宿アカデミー (202) 0141

小平次 10:30(日・祝のみ) / 1:35 / 4:40 / 7:45  
四谷怪談 12:00 / 3:05 / 6:10

小平次 (連日) 11:30 / 2:35 / 5:40  
四谷怪談 1:00 / 4:05 / 7:10